



「小さきものはみな美し」に寄せて

この企画は、作家と同年代の若い人たちにも現代工芸に興味を持って欲しいという、強い想いから始まりました。そのためには、小さくても魅力的であること、凛として存在感があること、少し無理をすれば購入できる価格であることなどを条件に十人の作家に依頼しました。その中で伊藤慶二氏と加藤清之氏のお二人には特別ゲストとして参加していただきました。今回の参加者は陶芸と金属の作家ですが、いずれは漆芸やガラスの作家にも参加を呼び掛けたいと思っています。

作品を依頼するもう一つの条件として、「書斎と茶室一二つの空間に置くもの」ということでお願いしました。書斎という知の空間は、制約のある茶の湯の空間よりも自由です。机上には、文鎮や水滴、書棚には、玉や青銅器、石造、金銅仏、小さな陶磁器、オブジェなどが飾られます。茶室には、香合や香炉、茶入などの小さな道具がありますが、茶籠や茶箱に入れる茶器や振出し、小服茶碗などは若い人にも大変人気があるようです。

それらを現代工芸で試みた展覧会が、今回の「小さきものはみな美し」展です。

伊勢崎晃一郎の《stairs》は、備前焼による「階段」をモチーフにしたオブジェです。壁に掛けられるようになっていますがこの「階段」はどこに通じているのでしょうか。それは、人によって異なるかも知れませんが、人は「階段」の先に何かを見ているように思います。

市岡真治の《擬態—茶入》は、茄子型の茶入の擬態です。市岡は「私の場合、擬態の本質は似せることではなく、どこまでいっても対象と同一ではないことにある」と言います。本歌の再現ではなく、金属でしか表現できないものを追求した力作です。

伊藤慶二の《香合》は、小石を象った素朴なものですが、よく眺めると、蓋と身の重なる凸凹の部分が、まるで石の表情のように個性的です。また内側は、蓋と身の重なる部分は黒く塗られ、窪んだ部分には銀が施されて、作家のデザイン力の確かさを表現しています。

加藤清之の《Torso》は、黒い胎土に白化粧土を柄杓で掛け、簡素な線描で裸体を表現しています。作家は「誇張し過ぎるといやしくなる。だから、さらりと描いた」と言います。そうすることでエロスが浄化されて永遠の美と化しています。他にも、大小の《Torso》が出品されます。

高橋奈己の《真珠茶器》は、名前の通りパール釉をかけた茶器です。不規則な稜線から生まれる陰影とフォルムの美しさは、小品であっても変わりません。今展には、茶箱に入れる茶器や振出し、造形的な香炉や菓子器、小さな《実》などが出品されます。

戸田浩二の《焼締水瓶》は、小さいながらも清涼感に包まれ凛としています。作者は「作品の大小にかかわらず、静かで普遍的な存在でありたい」と願っています。台座の上に水瓶を置き、祈りの空間を演出した、まさに「祈りのかたち」です。

中田雅巳の《SEN碗 黄》と《SEN碗 トルコブルー》は、ポケットやカバンにスツと忍ばせて持ち歩ける碗というコンセプトで制作したものです。磁土で成形した後に黒化粧土を塗り、針で線を掻き落とし、掻き落とし箇所着色化粧土を塗り込んだ作品です。

福本双紅は、径の異なる鉢を重ねて「ゆらぎ」を表現した独自の作品で知られる作家ですが、今回はプラチナ箔彩を施した器体に淡い水色の釉を掛けた茶盃が出品されます。作品名の《せつなし》とは、「刺激的に裏切られることを、いつも切に望んでいます」という作家の想いから付けられました。

星野友幸は「練継」という独特な技法によって注目されている作家です。今回の《紅玻璃小壺》は、真っ白い磁土で轆轤成形し、乾燥後に側面に鑄を入れ、ガラス成分の多い釉薬に少しだけ顔料を混ぜ、薄っすらとしたピンク色を呈した作品です。

留守 玲の《fizz》は、金属の棒を溶かして紐状にしたものを、紐づくりのような要領で積み重ねて制作した箱ものです。「熔け込みの深浅や、それによって起こる歪みを大らかに受け入れられるようになってきた」という作家の言葉通り、その成り立ちが魅力的です。

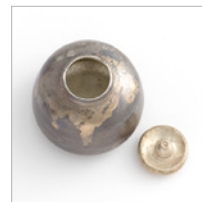
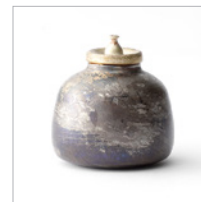


伊勢崎晃一郎

Isezaki Koichiro

昭和 49 年 岡山県備前市伊部に人間国宝 伊勢崎 淳の長男として生まれる
平成 8 年 東京造形大学 彫刻科 卒業
平成 10 年 渡米 ニューヨーク在住の陶芸家 ジェフジャビロ氏に師事
平成 12 年 帰国後、父 伊勢崎 淳に師事
平成 21 年 第 26 回 田部美術館 茶の湯の造形展 奨励賞 (平成 24、28 年)
平成 22 年 第 53 回 日本伝統工芸中国支部展 日本工芸会賞
平成 26 年 第 15 回 福武文化奨励賞

stairs
W5.0×D9.3×H10.0cm



市岡真治

Ichioaka Shinji

昭和 51 年 広島県生まれ
平成 14 年 多摩美術大学大学院 美術研究科 修了
神奈川県小田原市にて鍛金による作品を制作

擬態一茶入
φ6.2×H6.5cm



伊藤慶二
Ito Keiji

昭和 10 年 岐阜県土岐市生まれ
昭和 33 年 武蔵野美術学校（現 武蔵野美術大学）油画科 卒業
昭和 50 年 自身の工房を建て独立
昭和 56 年 第 39 回 ファエンツァ国際陶芸展 入賞（イタリア）
平成 18 年 岐阜県芸術文化顕彰（岐阜）
平成 19 年 第 4 回 円空賞 受賞（岐阜）
平成 25 年 地域文化功労者 表彰（文科省）
平成 28 年 平成 25 年度 日本陶磁協会賞 金賞

香合

W6.5×D6.5×H6.3cm



加藤清之
Kato Kiyoyuki

昭和 6 年 愛知県瀬戸市生まれ
昭和 39 年 朝日陶芸展 大賞
昭和 40 年 朝日陶芸展 大賞
昭和 45 年 日本陶磁協会賞
昭和 62 年 勅使河原蒼風コレクションによる加藤清之展（草月美術館／東京）
平成 4 年 バリ 日本の陶芸「今」100 選展
平成 5 年 日本のスタジオクラフト伝統と前衛展（ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館／ロンドン）
平成 11 年 バリ ギャラリーファール個展
平成 17 年 土から生み出すかたち・造形の軌跡 加藤清之展（愛知県陶磁美術館）
平成 19 年 日本陶磁協会賞 金賞
平成 30 年 加藤清之展（福井県陶芸館）

Torso

W10.8×D8.4×H27.2cm



高橋奈己

Takahashi Nami

平成 9 年 武蔵野美術大学短期学部専攻科陶磁コース卒業
 平成 9~11 年 ファエンツァ国立陶芸美術学校在籍 (イタリア)
 平成 25 年、27 年、29 年 菊池ビエンナーレ 入選
 平成 28 年 日本伝統工芸展 新人賞、女流陶芸展 T 氏賞
 平成 29 年 日本陶芸展 茨城県陶芸美術館賞
 平成 30 年 現代茶陶展 TOKI 織部大賞
 令和 元年 「岡田文化財団設立 40 周年記念 第 14 回パラミタ陶芸大賞展」 (パラミタミュージアム/三重)
 令和 2 年 「増原嘉央理/高橋奈己ー表現の形ー」 (瀬戸市新世紀工芸館/愛知)
 令和 3 年 「近代工芸と茶の湯のうつわー四季のしつらいー」 (国立工芸館/石川)

真珠茶器
 φ6.5×H6.8cm

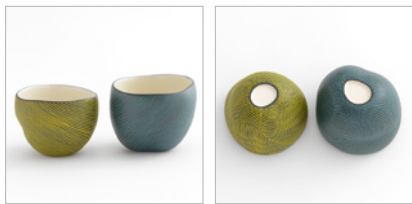


戸田浩二

Toda Koji

昭和 49 年 愛媛県西条市生まれ
 平成 8 年 筑波大学体育専門学群 卒業
 平成 10 年 伊藤東彦に師事 (〜平成 14 年)
 平成 14 年 茨城県笠間市に薪窯を築く
 平成 19 年 日本陶芸展 入選
 平成 23 年 国際陶磁器フェスティバル美濃 入選
 平成 29 年 一聖水 (LIXIL ギャラリー/京橋)
 令和 元年 「土と抽象 記憶が形に生まれるとき」 (益子陶芸美術館/栃木)
 NY・東京を中心に毎年個展・グループ展を開催

焼締水瓶
 [瓶] φ4.7×H9.5cm
 [台] φ8.7×H1.4cm



中田雅巳

Nakada Masaru

昭和 52 年 石川県生まれ
平成 9 年 石川県立九谷焼技術研究所 卒業
平成 19 年 金沢市工芸展 金沢市長最優秀賞 (同 21 年)
平成 26 年 「Meister der Moderne」 Bavarian States Prize 賞 (ドイツ)
「現代・陶芸現象」 (茨城県陶芸美術館 / 茨城)
平成 29 年 菊池ピエンナーレ 奨励賞、日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞展 奨励賞
令和 3 年 「近代工芸と茶の湯のうつわー四季のうつわー」 (国立工芸館 / 石川)
平成 26 年 ~ 現在 金沢美術工芸大学 非常勤講師

[左] SEN 碗 (黄) W7.0×D7.0×H5.5cm
[右] SEN 碗 (トルコブルー) W7.5×D7.0×H6.0cm



福本双紅

Fukumoto Fuku

昭和 48 年 京都市生まれ
平成 13 年 朝日現代クラフト展 グランプリ
平成 14 年 京都府美術工芸新鋭選抜展 最優秀賞
平成 15 年 平成 15 年度 五島記念文化賞 美術新人賞
平成 20 年 平成 19 年度 京都市芸術新人賞
平成 22 年 現代工芸への視点—茶事をめぐって (東京国立近代美術館工芸館 / 東京)
平成 24 年 第 30 回 京都府文化賞 奨励賞
平成 26 年 TRADITION ON FIRE (Asian Art Museum サンフランシスコ)
平成 30 年 第 3 回 日本陶磁協会奨励賞関西展 奨励賞 京都市長賞
平成 31 年 京都市立芸術大学大学院 博士後期課程 博士号取得

せつなし

W9.5×D8.5×H7.0cm



星野友幸

Hoshino Tomoyuki

昭和 51 年 山梨県甲府市生まれ
平成 11 年 横浜市立大学商学部卒業 人材サービス企業にて5年間勤務
平成 17 年 京都府立陶工高等技術専門学校 成形科 修了、猪飼祐一氏に師事
平成 19 年 東京都国分寺市にて独立
平成 25 年 第 53 回 東日本伝統工芸展 三越伊勢丹賞
第 60 回 日本伝統工芸展 日本工芸会奨励賞
第 5 回 菊池ピエンナーレ 奨励賞
第 22 回 日本陶芸展 特別賞・茨城県陶芸美術館賞
第 1 回 陶美展 優秀賞・札幌インテリアアクト賞
平成 29 年 第 11 回 国際陶磁器展美濃 審査員特別賞 (選: 藤本壮介氏)

紅玻璃小壺
φ9.3×H9.7cm



留守 玲

Rusu Aki

昭和 51 年 宮城県生まれ
平成 15 年 第 11 回 日本現代藝術奨励賞
平成 19 年 工芸のカー21世紀の展望 (東京国立近代美術館工芸館)
平成 24 年 「留守玲の茶室 さびのけしき」 (山口県立萩美術館・浦上記念館)
平成 28 年 第 2 回 菊池寛実賞 (智美術館)、第 27 回 タカシマヤ美術賞
平成 29 年 第 34 回 淡水翁賞 最優秀賞
令和 2 年 国際工芸アワードとやま 優秀賞
平成 27 年~現在 多摩美術大学 工芸学科 非常勤講師

fizz
W7.1×D2.5×H1.7cm

小さきものはみな美し

会 期 令和3年11月1日(月)～7日(日)
会期中無休

開 廊 時 間 11:00～19:00
※ 最終日の11月7日(日)は17:00まで

出 品 作 家 伊勢崎晃一朗
[在廊予定日] 市岡真治 11月1日(月)、4日(木)
伊藤慶二
加藤清之
高橋奈己 11月1日(月)、5日(金)～7日(日)
戸田浩二 11月1日(月)
中田雅巳 11月1日(月)
福本双紅 11月7日(日)
星野友幸 11月1日(月)～3日(水)
留守 玲 11月1日(月) (五十音順)
※ 恐れながら、コロナ禍の影響で、変更になる可能性がございます。

会 場 柿伝ギャラリー

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビル地下2階
(JR新宿駅 中央東改札より徒歩1分)
TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335
MAIL gallery@kakiden.com
http://www.kakiden.com/gallery

柿伝ギャラリー HP 公式 Instagram



コロナ禍の影響で、会期と営業時間の変更や、オンライン展示のみの可能性もございます。お手間で恐縮ですが、弊廊ホームページや公式SNSにて、最新情報をご確認頂ければ助かります。

出品作品リスト

作家名	作品名	本体価格/円 (税込価格/円)	作品サイズ(cm)
1 伊勢崎晃一朗	stairs [桐箱付・後日]	P4 50,000 (55,000)	W50×D9.3×H100
2 市岡真治	擬態一茶入 [桐箱付・後日]	P5 60,000 (66,000)	φ6.2×H6.5
3 伊藤慶二	香合 [桐箱付]	P6 40,000 (44,000)	W6.5×D6.5×H6.3
4 加藤清之	Torso [桐箱付・後日]	P7 200,000 (220,000)	W108×D8.4×H27.2
5 高橋奈己	真珠茶器 [桐箱付・後日]	P8 35,000 (38,500)	φ6.5×H6.8
6 戸田浩二	焼締水瓶 [桐箱付・後日]	P9 70,000 (77,000)	[瓶] φ4.7×H9.5 [台] φ8.7×H1.4
7 中田雅巳	SEN 碗(黄) SEN 碗(トルコブルー) [桐箱付・後日]	P10 各40,000 (各44,000)	黄 W7.0×D7.0×H5.5 藍 W7.5×D7.0×H6.0
8 福本双紅	せつなし [桐箱付・後日]	P11 75,000 (82,500)	W9.5×D8.5×H7.0
9 星野友幸	紅玻璃小壺 [桐箱付・後日]	P12 40,000 (44,000)	φ9.3×H9.7
10 留守 玲	fizz [箱無し]	P13 30,000 (33,000)	W7.1×D2.5×H1.7

新宿で大人の道草を。

柿伝ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

